

市民と市長のタウンミーティング要旨

日 時：令和6年5月7日（火） 19時00分～20時30分

場 所：コミュニティセンター南林間会館集会室

テ ー マ：新総合計画及び市政全般

参加人数：18人

○参加者からの意見等

【意見】

- ・ 大和市は地震による被害は少ないと思われるが、住宅密集地であるため火災による被害は心配である。
- ・ スタンドパイプが市内各地に配備される前は、消火器が市内で1000台ほど、南林間北自治会区域内に16台あったと記憶している。
- ・ スタンドパイプを実際に扱ってみると簡単ではなく、その目的は延焼防止であることから、初期消火には消火器の方が適していると考える。
- ・ スタンドパイプを維持管理していくよりも、全世帯に消火器を配布した方が火災防止につながるのではないか。
- ・ 消火器は1本4000円～5000円なので全世帯に配布すると約5億円。
- ・ 購入費の1／2補助というやり方も含めて検討していただきたい。

【市長】

- ・ スタンドパイプの有効性はあるものの、初期消火には消火器が有効と考えている。
- ・ ご提案の方法もあるが、家庭用の消火器は容量が小さいため、大型消火器を小さなエリア毎に配置するなど、様々な角度から消防と話し合っている。
- ・ スタンドパイプについては、現在数を維持するのか、見直すのか、地域の皆さんのご意見を伺いながら、今後の在り方を考えていきたい。

【意見】

- ・ スタンドパイプについて、訓練等でその消火力は確認しているが、欠点は地震災害で水道管に不具合があると使えないところである。

【市長】

- ・ 能登半島地震では上下水道の被害が大きかった。大和市の地盤は強いが水道管にどれほどの被害が出るかは分からない。
- ・ ご意見を真摯に受け止め、スタンドパイプについて検証していく。

【意見】

- ・ 学校給食について、WHOでもその危険性が指摘されている、マーガリンやトランス脂肪酸、ショートニングが含まれるパンを出すのは不安である。
- ・ また、牛乳に関しても、日本人の腸に合わないと言われている中で、全員に出すということ、一方で廃棄もしているので、毎日出すことは疑問である。

- ・市内の農家を応援する地産地消のオーガニック給食を推進して欲しい。
- ・予防接種について、接種は強制ではなく保護者の判断になるのだが、市から半ば強制のように言われると聞いているので、現場がどうなっているのか確認をして欲しい。
- ・市の資源回収について、リサイクルがどうなっているのか、リサイクル率や使い道を、市民にわかりやすく情報発信してもらいたい。その方が分別の啓発にもつながる。

【市長】

- ・子どもに安全安心な食を提供することはとても大切なことと考えている。
- ・オーガニック野菜や地場野菜を学校給食に使うためには、予算面の課題のほか、安定した供給などの課題もある。
- ・まずはできる部分から、オーガニックや地場野菜を使うことも含めて考えていきたい。
- ・パンや牛乳を含めて、学校給食に使う食材は市独自の品質基準を設けて、品質や味、添加物の少ない食品を選んでいる。ご意見については、参考とさせていただきます、引き続き、安全な給食の提供に努めていく。
- ・ワクチンに関しては、打つ権利と打たない権利、双方を尊重していく。
- ・本日、資源選別所と環境管理センターの視察をしてきたところで、資源の分別に関しては、自治会の皆さんのご協力もあり他の自治体と比べて徹底されている。
- ・私は大和市のごみ改革を行いたいと考えており、ごみが落ちていたら誰もが拾う、拾うのが当たり前というまちにしていきたい。
- ・資源リサイクルに関する情報発信は、わかりやすく市民の皆さんに届くような形で力を入れていく。

【意見】

- ・新総合計画骨子（案）の目標4「地域との絆が深く、多様性を認めるまち」に関連して、今、地域で一番困っているのは自治会の会員が減っていることで、地域との絆も減っている傾向にあるのではないか。
- ・市内全域で同じように困っている中で、自治会の加入率が上がれば、自ずと地域の絆も深まるわけで、市が自治会に協力する形で、加入率向上の取組を推進してもらいたい。

【市長】

- ・自治会は地域の要であると考えている。
- ・日本は大災害が起きても地域で助け合い、秩序が保たれ、救援物資を平等に行き渡らせることが出来るが、海外では無秩序になりやすい。
- ・これは自治会などを通じて顔見知りになっていること、地域コミュニティが形成されていることが大きいと考えている。
- ・自治会の加入率が下がっているのは、自治会に入ると面倒なことをやらされるなど、マイナスに捉えられていることも原因と考えており、市としても自

治会のメリットを啓発するとともに、自治会活動が若者世代に受け入れられるような形、デジタル化なども含めて、考えていかなければならない。

- ・ 能登半島地震の復興ボランティア活動で、4月14日～16日の3日間、石川県七尾市と富山県高岡市を訪れた。
- ・ 震災から3か月以上経過して、避難所にはプライバシー保護の間仕切りが設けられていたが、この空間で生活するストレスは大きく、全く見知らぬ人と過ごすのと、地域で顔見知りの人と過ごすのでは、ストレスの度合いが大きく異なるという話を聞いた。
- ・ 自治会を中心にしたコミュニティがあると顔見知りの人が増える。こういったよいところ、自治会のメリットを啓発・情報発信していきたい。
- ・ インターネットの動画やSNSでは、自治会のデメリットばかりを強調する傾向にあるので、それを覆すメリットをポジティブに発信していく。
- ・ 市は自治会に大変助けられているので、加入率向上のための策、自治会にプラスになることを、少しずつにはなってしまうが取り組んでいく。

【意見】

- ・ 自治会員の高齢化が著しく、自分で情報を得られる方はよいのだが、地域の限られた狭い範囲でしか行動できなくなっている方が増えている。
- ・ 若い時は自治会活動を手伝っていたが、高齢になり手伝いができないという理由で退会する方もいるので、市として自治会を維持できるように支援していただくことを要望する。
- ・ 私は市外から転入してきたため、お祭りや運動会など、活動内容に疑問を持ちながら自治会活動を手伝っている部分もあった。そういったことに駆り出されるのが嫌だと思える人がいることも理解できるので、旧態依然としている部分を改革することも必要ではないか。

【市長】

- ・ 私の住む地域も高齢化が進んでいて、盆踊りの踊り手さんは各地域の自治会婦人部が相互に参加していたのだが、高齢化で他の地域の盆踊りに参加が難しい状況になっている。
- ・ 自治会員の高齢化によって自治会活動を支える担い手が不足しているのは大きな課題と捉えている。
- ・ 若い世代が手伝うことが解決策のひとつであるが、働きながら自治会活動を行うのは難しい部分もある。
- ・ 他の自治体で、自治会活動が成功しているところは、回覧板をLINEに変えるなど、若い世代が使い慣れているツールを活用しており、自治会活動の目的は変わらないが、手段を変えることで、若者の参加を促していくことも大切である。
- ・ 働く世代、特に40代～50代の人々が自治会活動を手伝えないのではなく、こういうことだったら手伝える、子どものためになることなら手伝いたいと思える部分を明確にする必要がある。

- ・ 自治会のメリットは、地域コミュニティを生み、人と人がつながるきっかけをつくることだと考えている。
- ・ ハーバード大学が長年継続している「幸せ」に関する研究で、「幸せ」は富や名声でなく、よい人間関係が一番大事であるという結論が出ている。
- ・ その逆、孤独と孤立は「幸せ」を感じることができないことから、地域コミュニティ、人と人がつながる居場所が非常に大切であり、それを実現することができるのが自治会のメリットである。
- ・ 自治会のよいところは残しつつ、時代の変化や若い世代のニーズも踏まえて改善する必要もあるので、行政は自治会の皆さんの声を聞いて、自治会活動をアップデートするよう促していきたい。

【意見】

- ・ コロナ禍で何もできなかった時に、月２回ラジオ体操を始め、現在も継続して毎回４０～５０人の参加がある。
- ・ 市の奨励金（自治会活性化のためのラジオ体操事業奨励金）申請について相談したところ、奨励金の交付要件の回数（年度内に３０回以上実施）に見合わずに対象とならなかった。
- ・ 地域のつながりのためにやっている事業なので、交付要件の回数を緩和することを要望する。

【市長】

- ・ ご要望を関係する所管課に情報提供し、対応の可否について検討する。

【意見】

- ・ ５月５日にやまとんＧＯに乗って泉の森に出かけ、何よりも驚いたのは、あの広い敷地の中にごみがひとつもなく、園路だけでなく、樹木の多いところや山の上の方まで本当に綺麗だったこと。
- ・ とても気持ちよく過ごすことができた。公園の管理に携わる皆さんに感謝申し上げる。
- ・ あまり来園者がいなかったのも、こんなに素晴らしい公園があることを、市の内外にもっとＰＲして欲しい。
- ・ 先ほどのラジオ体操に関連して、私たちの自治会は毎週土曜日に実施しており、小学生を中心に未就学児も多く参加していて、付き添いで来ている保護者に声をかけて、夏祭りなど自治会事業のボランティアに１０名ほど協力いただけるようになっている。
- ・ 若い世代に自治会の役員をお願いすると引いてしまうが、事業の手伝いなら無理のない範囲で楽しみながら協力してくれているので、こういったアプローチも参考になればと思う。

【市長】

- ・ 泉の森に係る職員に、いただいた感謝の気持ちを伝える。
- ・ 泉の森には水車小屋や木製の吊り橋などもあるので、よいところをもっと

発信していきたい。

【意見】

- ・ 大和市全体としては人口が増えているという説明があったが、地域の活力という点ではいかがなものか。
- ・ 南林間地区も人口は増えているが、二条通商店街を見れば2／3はシャッターが閉まっている。
- ・ 現役世代の生活パターンを見てみると、月曜から金曜までは市外に働きに出ていて、土曜、日曜の休みの日は、座間のコストコやイオンモール、若い世代は南町田のグランベリーモールや海老名に買い物に行ってしまう。
- ・ 大和市は人口の割に、都市計画の中で物を作ったり、物を売ったりするという、そういう機能が残念ながら進展してなくて、近隣市の方が充実してきている。
- ・ このままだと個人市民税だけに頼らざるを得なくなってしまう。
- ・ 50年ほど前の海老名は、このままでは農業も工業も衰退してしまうという状況だったので、都市計画の中でまず何をしなければならないかと考えた時に、海老名市の人は市内の中で買い物をして生活できるまちを目指して出来たのがビナウォークで、あれが今の海老名市の基礎となっている。
- ・ ビナウォークも今は古くなってしまったが、若い世代は西側のららぽーとのある開発エリアに集まっており、都市として健全に成長していこうとするためには、やっぱりそういう核となる機能が必要ではないか。
- ・ こういう場で話せないこともあるかと思うが、総合計画は10年という長い期間なので、何かそういう大和市を変えるような大きな計画を考えているのかどうかお聞きしたい。

【市長】

- ・ 海老名市は、海老名インターチェンジの完成で道路網が整備され、物流が大きく変わったことにより、企業の進出が増え、今後もさらなる大規模開発が予定されている。
- ・ 現在の大和はベッドタウンであるが、将来的には大和市に働ける場所をもっと多くしていき、大和市の中で消費できるようにするため、市内に残されている広大な土地を有効活用して、産業を誘致していきたい。
- ・ 働く場所があれば、若者世代が集まり、そこで出会った若者が結婚して子どもを産み育てる場所にもなるので、企業誘致に力を入れていく。
- ・ 現在も大和市企業活動推進条例に基づいて新規立地企業に対して奨励金や固定資産税の優遇措置などに取り組んでいるが、先端技術や次世代の技術を持った企業誘致に関しては、私がセールスマンになってどんどん企業のトップに会って、大和市の利便性・メリットを訴えて誘致を実現したい。
- ・ 先日、お会いした人工衛星をつくる宇宙関連企業が大和市を選んだ理由として、交通利便性や人口の多さから従業員を集めやすいことを挙げられているので、そういう点も大和市の売りにして、企業誘致を行っていきたい。

- ・ 若者を集めるには、大学の誘致も有効であるが、大学全部を誘致することは難しいので、学部や研究室を大和市に誘致して、優秀な人材を育てるということもしていきたい。

【意見】

- ・ 2年前に息子家族が県外から大和市に転入しており、以前、住んでいた場所と比べ、とても暮らしやすいと言っている。
- ・ 私も長年、大和市に住んで暮らしやすさを感じてはいるが、ここ最近の高齢化に伴う課題を伝えたい。
- ・ 近所の開業医が次々に廃業しており、頼りは市立病院ということになるが、非常に敷居が高くなっている。
- ・ かかりつけ医制度は国が行っているもので、市の問題ではないこと、民間に対する口出しができないことは重々承知だが、今後「健幸都市」を謳う以上、開業医の減少について、何か考えるところがあるのかお聞きしたい。

【市長】

- ・ 市内の開業医が減少していることについて、大和市医師会にも働きかけていく。
- ・ 大和市は健康診断やがん検診が充実しており、神奈川県下でもトップクラスなので、検診が無料で受診できるのは、開業する医師にとってはメリットになるので、そういう部分を押し出していきたい。

【意見】

- ・ 現在19歳で、この会場でも最年少だと思う。
- ・ タウンミーティング参加して思ったのは、若者世代が少ないということで、こういう場合は、大和市の未来を考える大事な場だと思うので、もっと若者が参加するべきである。
- ・ 若い世代は、忙しかったり、政治に関心がないという理由で参加しない人が多いと思うので、例えば、SNSを活用して参加を呼び掛けると、若者が参加しやすい場になると思う。

【市長】

- ・ もっと若者の声を聴きたいと思っており、今後「こどもミーティング」を実施して、子どもたちから見た大和市の問題や大和市でやってほしいこと、未来に向けて何をして欲しいのかを聴く。
- ・ 若い方の声を聴くためにSNSを活用していきたい。
- ・ 上瀬谷通信施設跡地の「GREEN EXPO」開催、その後のテーマパークの開業が予定されている。
- ・ 具体的な内容は示されていないが、若者向けやインバウンド向けのコンテンツになる可能性があるので、「GREEN EXPO」やテーマパークの内容に合わせたイベントを仕掛けていく。
- ・ 市民に選ばれて市長になっているので、市民の代表として大和市に若者が大

和市に興味を持って集まってくれるようになる施策を職員と一緒に考えている。

- ・ 若者世代の皆さんには、こういった場や「市長への手紙」などで、ぜひ提案してもらいたい。

【意見】

- ・ 南林間には核となる公共施設がないため寂しい地域になっている。
- ・ 今後、新たな公共施設を設置する場合は、この街に住んでよかったと思えるような建物をつくって欲しい。

【市長】

- ・ 北部にポラリス、中部にシリウス、南部にイコーザがあり、現時点で公共施設を増やしていく予定はないが、地域の皆さんの声を聴きながら、コミュニティを醸成する居場所づくりについて考えていきたい。

【意見】

- ・ 地域の声ということであれば、今一番困っている問題がリサイクルステーションである。
- ・ 南林間西南自治会は、リサイクルステーション制度導入時のテストを行った自治会なので、資源の戸別回収のテストを行う際には、ぜひ南林間で行っていただきたい。
- ・ もう一つ困っているのは、速度規制がされていない道路の問題である。
- ・ 市の所管ではないことは理解しているが、速度規制がないと60kmが法定速度となるため、コミセンの前の道路も60kmまでは出してしまうので、住宅街の生活道路は30kmにして欲しい。

【市長】

- ・ 道路に関して、現在、道路整備計画の見直しを進めており、歩行者の安全を確保できるよう計画に落とし込んでいく。
- ・ 道交法に関係する部分については、所管課を通じて警察にご意見をお伝えさせていただきます。

【意見】

- ・ 歴代の市長や他自治体の首長を見て思うのは、就任から間もない期間は、市民の意見を聴こうということで、こういった場が設けられているが、在任期間が長くなってくると残念ながらこういう場が無くなることが多い。
- ・ 大衆とのパイプを太く保つためには、情報をもらうばかりではなく、情報を適切な時期に適切な方法で還流させることが大切である。
- ・ タウンミーティングでどんな意見が出たのかがわかると、後に続く人も出てくるようになる。
- ・ 近隣自治体には無いマーケティング課が出来たことで、市民に向けて情報の還流が生まれることを期待している。

【市長】

- ・ 神奈川県内にはマーケティング課がある市町村はなく、千葉県流山市のマーケティング課が有名である。
- ・ 人口増加率が6年連続(2016～2021年)で全国トップになったのも、マーケティング課が収集分析した情報を市政運営に取り入れていった結果と捉えている。
- ・ マーケティング課が収集した情報を分析して政策に反映させ、市民の皆さんにも情報を還流させていく。
- ・ タウンミーティングについても、皆さんの貴重な声を聴く場として、新総合計画策定後も継続していく考えである。